

特集

3.11 と児童文学 I



Photo by Rika Nishiyama

2011年3月11日、午後2時46分、
東北地方太平洋沖を震源にマグニチュード9.0の地震発生。
一年後の新聞一面には、
「死者1万5854人、行方不明3155人 34万人が避難生活」とある。
1000年に一度とも形容されるこの大地震、そして大津波。
圧倒的な破壊と喪失の経験を体に刻んでこれから生きていく子ども
たちに、児童文学はどういう力を持ち得るのか。
暴力的に与えられた見直しの契機を、地に足付けて踏み出すために、
今号は、自然災害の側面を中心に、
次号では、原発・核の問題を中心に、
二号連続で、「3.11」と向き合う足場を探っていく。